

コンサドーレ札幌 サポーターズ集会 2015



とき 2015年2月11日(祝) 12:00~

ところ 札幌コンベンションセンター「SORA」
107+108連結会議室

齋藤(以下司会)：それでは恒例になりましたコンサドーレ札幌サポートーズ集会2015を開催させて頂きます。まず我々、複数のスタッフで運営させて頂いておりますのでご紹介させていただきます。会場係のリーダーをしております千葉君です。後ろの方、会場係の松本君、奥さんの明美さん。それと撮影担当の渡辺さん、記録係で高森さん、鎌田さん、熊野さん、受付の松村さん、齋藤さん、進行の中川さん。で、今日の皆様のご発言は全て記録させて頂いておりますし、後ろの中央にテレビカメラが入っておりますが、この内容はオンラインで関東後援会のサポートーの集会があり、その会場にライブで中継されております。午前中関東後援会の方の総会がありまして、そこで出てました質問も、関東後援会の方がいらっしゃってますので、代読して投げかけて頂くと。関東後援会の会場にいらっしゃる方もご覧になっているという事でご理解を頂きたいと思います。私進行させて頂きます、齋藤でございます。よろしくお願ひ致します。それではさっそく社長の方から。あとは社長にお任せいたします。よろしくお願ひ致します。

野々村社長(以下野々村)：皆さんこんにちは。お休みなのにありがとうございます。ほんとまあ、いつもいつもですけれども、クラブの事を考えてくださっている方が今日来てる方々だと思ってますんで。まあその事に関してはいろんな所でありがとうございますという事を改めてお伝えしたいと思います。何をしゃべろうかなと思ってるんですけどね。僕がいくつかしゃべる中で足りないものは折角なんで聞いて頂いて、質問がなくなったら終わるっていうような感じで今日は進めたいと思います。いつもいろんな所で、企業さんとか団体なんかで講演をさせてもらうんですけど、その時に伝えるような事をちょっと最初に話をしたいなとは思ってます。普段はあんまりサッカーに興味がないとかあんまりコンサドーレの事知らないっていう方々が集まる会で話す事が多いんで分かりやすくというか、ほんとに初步的な感じで話をしますけど、今日はある程度皆さん理解されてる人たちだと思うのでざっくり話はしたいと思んですけど。コンサドーレ、何でこう勝てねーんだっていうような事をね、いつもいろんな所で話す時にはそういう話をする事にしてます。普通の人というか、一般の人たちは勝てそうなチームなのに勝てなくて、ある意味だらしないっていう様な、弱えーなっていう感想しか持てないのが僕は現実だと思ってるんですね。講演なんかでは、実際どうだから勝てないっていう事を言うようしてるんですが、簡単に言っちゃうとやっぱりクラブが大きくならない限り勝つ事は難しいんですよ。まれに小さなクラブで強化予算が少なくても1シーズンうまく行くっていう事は、まあサッカースポーツの世界なんによくある事ではあるですね。じゃコンサドーレは今まで4回上がって4回落ちている。でしたっけ、そうですね。で、4回のうちの殆んどが少ない予算で現場が頑張ってたまたまいシーズンを過ごして上がった。だけど強化予算が少なすぎるので、相手チーム、ライバルとの競争力がなくて落ちてる。これが現実なんですね。うまく行ったシーズンは、それこそ僕らがサッカーしてた2000年とか2001年のシーズンとかだと、まあまあなんですよ。まあまあっていうのはクラブの大きさとして、予算規模でいうと全体で多分20億円位。10年以上前ですけど、今でもJ1の中に引っかかってもいい位の規模ではある。で、当時は強化費を10億円まではいかないですけど9億円前後を使ってチームを作っていた。10数年前なのでJ2のレベルも低かったわけですよ。J2のレベルというか日本サッカー自体の、他のクラブのレベルもそんなに高くなかったので。正確ではないかもしないんですけど2000年J2にいたコンサドーレの規模はJレッグに続いて多分2番目とか3番目位だったと思います。それが最近どうだったかというと、僕がここに来たのが13年シーズン途中みたいな感じですけど、13年シーズンだと、2000年の時に20億円近くあった物が12億5千万円位なんですね。それだけクラブがちっちゃくなってしまっている。一方でどんどん成長をしてるクラブがあるので、コンサドーレは日本で30番目ぐらいのクラブの大きさになってしまっていると。当時、13年のシーズン12億5千万円で強化にいくら使えたかというと、3億円なんですね。3億円というのは当時のJ2でも12、3番目の費用しか使えてない。僕は一方でプレーヤーとしてピッチの上の事も感覚としては当然わかるので、プレーヤー目線からすればその3億円だろうが10億円だろうがこのグループでとにかく、シーズン良い結果を出すために絶対的に努力はするっていう事はもう当然みんなやっている。だけど、今の立場で行くと、3億円しか用意できないようなチームに対して、J2で13番目位のスタートポジションのチームに対して絶対に昇格をしなさいとは言えないし言ってはいけないと思ってるんですね。で、僕らクラブもコンサドーレを少しでも大きくしていくこうと思ってくださっている皆さんはそういう認識でいるので強化費のバジェットをどうやって大きくしていくか、クラブをどうやって大きくしていくかという事をやらないといけない。勝負を捨てているという訳ではなくて、少ない予算でも勝てるっていう可能性はあるんだけど、何とかそのバジェットを大きくしようと。僕来て3年目になりますけど、毎年強化に使えるお金を少なくとも1億円ずつ位増やしていきたい。一昨年3億円、去年4億円、今年は5億円ちょいぐらいの予算を組んでチームを編成してます。もちろん5億円以上の価値のある選手を

どう揃えるかっていうところはまあこれはクラブ側の腕次第ですけど。一方で15億円位使ってるチームがぽこぽこあつたりする中で、うちは順番でいうと7番目か8番目くらいなんですね。だけど15億円とか使っているクラブともある程度うまくやれれば競争できるようなものは用意できているんじゃないかなと思っています。じゃあねどうやってそのクラブを大きくしていくかっていう事ですけど、そもそもコンサドーレ今魅力があるのかないのか、絶対的にあると思ってます。で、その魅力に気づいてくれている人たちが、皆さんも含めて1万人位の人たちはいてくれている。だけど一步離れてそもそもコンサドーレに興味のない人たち。新聞とかテレビで勝ったか負けたかしか伝えてないのが現状で、その情報を目にした人々は、ここの中に入つてこないと。コンサドーレの魅力はわからない訳ですよね。一步離れたライトな人たちにどうやってコンサドーレの事を、興味を多少でも持つてもらうようになるか。それはもう露出しかないと思う。時間が経てば多くの口コミである程度広がつてはいくし、途中でダメになる事はないとは思ってるんです。けど早く大きくなつて早く勝ちたい、勝つ可能性を高くしたいと考えると、どうやって露出をするかっていう事を考えないといけないと。一方で伝える費用はあるのかというとそんなにないので、ない知恵絞っていろんなアイディアを出しながら、例えば新聞とかテレビとか話題として扱つてもらえるよう、この2、3年取り組んできている。効果としては悪くはなかった、レ・コン・ビン獲つたりしながら。獲れば東南アジアで初めてのJリーガーっていう事とか。そもそもそれだけで話題にもなる。一方で強い弱いっていう事にしか興味のない人たちにとって、例えば一般の新聞で言うと、スポーツ面では野球がドカーンと載つてサッカーがちょっと載るみたいな感じですよね。その枠をどう取り戻すかっていう事もやつてはいくんだけど、それよりも経済面とか社会面でコンサドーレの価値、勝つか負けたか強い弱いっていう事以外の価値をどう伝えるかっていう事のトライとして、アジア戦略みたいな事をやってきてる、サッカー、コンサドーレっていう一つのコンテンツを通して。レ・コン・ビンが活躍しました。レ・コン・ビンの活躍をベトナムでテレビ放送します。その時日本の札幌ドームに看板を出してくれたところが日本にいながら、コンサドーレが日本で札幌で試合をしていながらベトナムの9千万人の人たちにアプローチが出来る。何かと何かを繋げる価値はサッカーに元々あって、それがサッカーだからできる事でもあるという事を、新聞なんかは経済面社会面で書いてくれたりするわけですね。勝つ負けたしか興味がない周りの人たちにとっても「サッカーってなかなか価値があるんだな」と、サッカークラブそもそもの価値を伝えるというような努力も引き続きやっていかなきやいけない。たまたま新聞見て経済面読んだらコンサドーレの事書いてあったからコンサドーレを少し気にする様になると。そんな循環をチームの成績とは別に作つていかなきやいけないんで、その辺はうまくやれたと思いますし、継続してどんどんやつていかなきやいけないと思ってるんですね。サッカークラブの価値、なかなかこれが伝わりづらいところがあつて。色んな所の講演でもよくしゃべるんですけど、この地域において今までの一番の価値は、コンサドーレが20年前位にできて、それと同時にワールドカップが日本に来そうだと。地元地域にコンサドーレがあるんだったらサッカー専用のスタジアム、結局は札幌ドームができるわけですが、コンサドーレがあったからこそ札幌ドームもできたっていう側面は少なからずあると思うんですね。じゃあ札幌ドームがでて今どうなつてるか。コンサドーレにとつては良いのか悪いのかわからないんですけど、野球も来て、それからアーティストも沢山来て、地域の人たちにとってはすごく楽しみが増えたというか文化レベルがすごく上がつたと思うんです。その始まりはやっぱりサッカー。サッカーの価値とかコンサドーレっていうクラブの価値を実にわかりやすくこのエリアで表現していると思っているんですね。そんな事を多くの人にわかつてもらうために、コンサドーレはいろんな価値があるんだよって事を伝えていくっていう様な事を僕らはしなきやいけない。そうなつてくると新しい人、外側にいた人がゲームを観に来て、コンサドーレの事を少し知るとかスポーツ文化を考える事でコアな人たちに変わつていくような、そういう循環を作つていかないと大きくはならないだろうなと考えてます。多分皆さんも入り口は、結局テレビだつたりしたと思うんですね。何年前位からコンサドーレ応援してくれてるかはそれぞれだと思いますけど。北海道の人はよく熱しやすく冷めやすいと言いますけど、僕は全然そんな事思つてはいなくて、すごく地域愛に満ちあふれている。一方で東京とかっていう所と弱冠違つて、テレビから発信される情報を全て本物としか伝わつてない。テレビに出てる人、乗つかつてる人々はすごい人だつていうような感覚を強く持ち過ぎているようなると、あの人たちダメなんじやないか。単純にこう思つちゃうって事ですね。逆にテレビに出てる人々はすごい人だと思うのが首都圏よりも強いと思う。恐らく2000年位のシーズンなんかはすごく露出もあって、それを観てすごうだなと思って来て、そこで楽しいなとか魅力的なと思った人々が今こう残つてコアになつてつてくれていると思う。その循環をもう一回取り戻さないといけないという事で、テレビ局にもすごくいろんなアプローチはしています。Jリーグ50クラブくらいありますけど、昔からある程度の規模でやつてある関東じゃないエリアのチームは殆んど地元のテレビ局が何らかの形でスポンサーになつてるんですね。コンサドーレはどうかっていうと、一個ないわけですよ。去年も一応動いてはみたけど感触が悪く、今年も同じ様に各社にいろんなセールスはしようとは思つてますけど、その辺のやり取りがメ

ディアサイドとうまくできると露出も取り戻す事ができるというか、以前のレベルに近づくんじゃないかなとは思っています。こう話すと大体お金の事なっちゃうんですけど、でもそれがないとダメだっていう事は認識してもらいたい。Jリーグが始まって今上の方にいるクラブの殆んどは元々日本国内におけるでつかい企業が母体というか親会社的に始まったサッカークラブばかりなんですね。そういう何兆円とかっていう売上があるような所がスポンサーになってるようなクラブは、その企業からだけでたぶん、大体10億円くらい出てるんですよね。僕らの今の事業規模、まあ売上とか予算は大体去年で14億円くらい。一番でかいのはレッズで50～60億円位。じゃあ何処まで行かなきやいけないかっていうと30億円位は全然いける数字だとは思ってるんですね。今14億円しかなくて、何でそんだけなのか。単純に親会社がないからっていうところなんですよ。だけどそれがないから終わりかっていうと全然そうは思ってなくて、500万も北海道全体でいるような地域でそこに参加してくれる、クラブを作るっていう事が本来のスポーツの楽しみ方であるという事がわかってくれる人が増えれば、でつかいスポンサーがいないような地域のクラブでもできるんじやないか、30億円位まではいけるんじやないかなと思ってます。30億円あると大体半分位は強化に、チームに当てられると思う。そうすると常に上にいる事のできるクラブになるという事です。大体こんな感じでサッカークラブは成り立ってますっていう事を今お話をさせてもらったという事でご理解頂きたいと。勝ってほしいなーって僕も思うんですよ。勝ってほしいし勝ちたいなと思うけど、そなへつかりを選手とか現場に。今年だったら、お前ら5億円で絶対勝てって言っている。それも一つのサッカーの観る楽しみではありますよね。このチームでどう勝つかっていう事は楽しみの一つではあるんだけど、やっぱり5年後10年後を考えると、5億円じゃなくてみんなでそこを10億円にしようよっていうような楽しみを僕らは皆さんと一緒にやっていくのがスポーツ、サッカーを強くするとかっていう事だつていうふうにご理解してもらえた嬉しさだと思います。次チームの事いきますか。だけど勝ちたいんですよ、僕は。勝てる可能性はあると思ってます。まあこれも中継してるというか外に漏れるっていうのは選手が聞くとかわいそうだなと思っちゃうんですけど、これはもう現実として厳しく言います。13年のチームと今のチームで明らかに可能性が違うと思いません？全然違うと僕は思うんですよ。それはサッカー上がりとして戦力的に。簡単な話ですけど、やっぱそこは2億円の差なんですね。で、今年のチーム。10億円以上使っている上の7つ6つのチームにどう対抗できるか。レギュラーだと思う選手が70%普通に稼動して、残りの30%は北海道の若い子がしっかり絡んでくるとか、出れなかつた選手がいた時にそこに入つてそれなりのパフォーマンスをするっていう事ができれば、結構可能性はあると思ってます。まあやってみないと、こればっかりはなんともわかんないですけど。まだキャンプ観ていないんで、僕の眼で見た話じゃないんですけど、いろんな人から聞く話だと、ナザリトと都倉。最初の頃ってあんまり二人組で何かしなさいとかっていうトレーニング、誰と組んでもいいみたいな感じなんだけど、バルバリッチはナザリトと都倉は結構二人で組ませるような感じでやっているみたいです。こないだのゲームはナザリト、都倉、伸二が前3人でスリートップみたいにしてやつたみたいなんんですけど、イメージは良さそうですよね。ちょっとやりそうじゃないって思うんですけど、まあでも相手川崎だった。いろんな考え方あるんですけど、相手も3バックだったんで前の3人がどうやってボールを追うかみたいな所が難しかったり。特にナザリトがまだコミュニケーションの問題なのか、日本のサッカーで守備をどうやってやるかっていう様な所があんまりまだしつくり来てなくて。ボールの追い方みたいな所では、例えばナザリトじゃなくて内村の方が良いとかっていう様なイメージで今そういう段階みたいですね。でもボールが入れば強さとか速さとかっていう所ではすごいなっていう所は見せていたようです。サッカーって難しいんですけど、90分あるうち2分しかボール持たないわけで、ナザリトも伸二も大体2分間位しかボール持たないわけですよ。じゃ残りの88分間何もできなくて2分の時にすごきやそれでいいのかっていうと。まあある種メッシなんかはそれでいいんですよね。メッシだって1試合で7キロか8キロしか走らないんでしょ。本当かどうかわからないんですけど、記事で読んだんですけど大体10キロ11キロ12キロ走んなきやいけないんだけどメッシはその88分は殆んど何もしていないわけですよ。だけど2分間ですごい事ができるからアツは凄いわけで、うちのクラブでそんな人が居るかっていうと居るわけがないので、ナザリトもボールがない時の88分間をどういう仕事をチームとしてするかができるいくとより良くなるという様な事じゃないかなと思います。ボランチは誰がやつたつけな。ニウドが結構いいみたいですね、やっぱり。まあまあ守備は頑張れそう、昔から知ってる人だったらビジュより頭良さそうだなっていう感じらしいんですよ。で、ビジュよりちょっとうまいっていう。当時10億円くらい使ってあの選手、今回5億円なのにその選手がいる。強化スタッフうまく取つたなと思います。想像以上にいろんな事がまあできるようなイメージをスタッフなんかは持つたみたいです。心配なのはカード。川崎のゲームでもトレーニングマッチなんでそこまで行かないのが普通だけど本番だったらちょっと危ないっていうようなシーンも何度かあったみたいなんで、その辺のコントロールですね。今上りもいるし裕樹もいるし、ボランチの所はスタートはその辺が争つて行くんじゃないかなと思います。後ろが誰だ、竜二がケガしてたりして稻本が真ん中やつたりして。櫛引も後半3バックの真ん中で出てすごく良かったっていう評価をされているみたいなので、まだ誰

がどうなのかはわかんないですね。そこは競争してくれればよくて、一つは荒野が右で左が石井ちゃんがやったのかな。その辺、僕は左のアウトサイドが多分一番競争になるんじゃないかなと思ってます。でもこれは僕の考えですよ、バルバリッチがどう考えているかはわからないんですけど。そんだけ人が集まって若い奴何処でどうしてんだろうっていう事になるわけですよ。でね、これはもうある種しようがない事で、それをどう超えていくかっていう事ができない選手は、この世界なんでもう越えられなかつたら終わってくしかないですね。終わってくってうちのチームを終わってくって事ですよ。何とか引っかかってくる、それを超える若いのが出てくるといいなと思います。中原彰吾も後半出て、3回位決定機があつてまた入んなかつたって言ってました。まあ本番で獲ってくれればいいんですけど、彰吾は左ウイングバックみたいな所で勝負する様な感じでいいんじゃないかなとも思つたり僕はしゃいますけどね。頑張って走れるんで、チャンスは作れると思うんですよね。あのポジションだと点入んなくともまあ許せるかっていう感じにもなる。本人にとってそういう選択もありかなと思います。例えばブラジル代表の話ですけど、レオナルドだって左のサイドバックやつてた時期がありますからね。そつからだんだん前の方の選手を超えていくっていうような事をやってくれてもいいかなと思います。でも去年一昨年より若い選手がゲームに出て行くっていう事が難しい環境には絶対的になっているのは事実ですよね。それだけ使えるお金が増えると戦力は充実してくるって考えてほしいなという事です。まだキャンプにも行ってないので何ともわからないんですけど、可能性は充分感じられるチームになるんじやないかとは思います。こないだのメンバーがスタートだとするなら、やっぱり内村が途中から出るとか、前田が途中から出るとかっていう事になるわけです。その選手達のマネージメント、要は今までずっとスタートで出る事が多かった選手がふくされるとか何かこうチームの和を乱すとかっていう事は何となく想像つくと思いますけど、その辺しっかりできるかどうかは監督とかスタッフの腕次第で、うまく廻ったとしたら勝てる可能性は相当上がるっていう事にはなると思います。あんまり期待ばっかりさせるのもしようがないんですけど、今はどっちかと言うと勝ちたいっていう現場側立って話をしましたけど、クラブとして言うとそんな簡単に行くはずがないというか。ビッククラブもいる中で15億円対5億円がやってどう勝つか。これはもうなかなか普通は勝てないわけですよね。だけど頑張ってほしいなっていう事で、コンサドーレの今の立ち位置として、小っちゃなクラブだけどうやってジャイアントキリングを起すかっていう楽しみ方のクラブだっていう事を伝えたくてジャイアントキリングっていう言葉を使ってます。このままでいいのかとは全く思つてなくて、一昨年で12億5千位、去年は14億3千位、売上をちょっとずつちょっとずつ伸ばして。今年も5億使つて事は15億5千万位を売り上げなきやいけないんですよ。去年よりもまた1億円以上新しい売上を作つていかないといけない。チームは勝つために頑張るし僕らはクラブを大きくするためにちょっとずつ、数字で言うと1億円くらいを新しく売るっていう事をやつていく。今は何とか20億円位に近い将来、数年後に持つていくっていう努力をしながらチームは他よりも少ない予算でどう結果を出すかっていう事になるわけです。で、上がつたらどうなるのっていう事ですけど、例えばJ1に上がつたら今年5億なのに来年6億なのかっていうと全然そうではなくて、J1で残留するためには少なくとも一般的には10億円は必要だと言われるんですね、強化費がですよ。上にあがるとJリーグからの分配金とかスポンサー収入とか入場料収入とかもろもろ含めて大体3億から4億位は売上は上がると思います。今までのデータ見ても大体その位は何とかなつてるんで、その分乗つければまあ10億円近いチームはできるって考えてます。一方で他はもっと使ってのにどうやって勝つか。サッカーのテクニカルな部分は良い選手を安く獲るとか、若い選手をどう育てるかっていう所で何とかカバーしていく事を繰り返してやっていかなきやいけない。安い予算でどう勝つかっていう話を少ししますけど、北海道の若い子たちがうまくならない限りなかなかちっちゃい予算で勝つのは難しいんですね。2年前から財前にやってもらって、当時は3億円のチームなのでただ勝つ事だけよりも若い奴をどう伸ばすかっていうトライをしてもらったと言うことです。どういう事かっていうと、今回この会にあたつて斎藤さんもいろいろ書いてくれましたけど例えばバックパスが多いとかそんなゲームが多かったのは事実だと思うんですけど、これをどう伝えるかってすごく難しい。例えばレンタルで居なくなりましたけど奈良、でもまだレンタルですからね。2年前の奈良がどうだったかっていうとボールは繋げない、体はまあまあそこそこ強かつたけどボールを奪つてもただ捨てちゃう。要はロングパスで前の方に蹴り出しつければいいと。そうすると観てる方はピンチが終わったから何かホッとするのは何となくわかるんですよ。だけどただボールを捨てる事しか出来ないような選手、またそれがゴールに向かって行くっていう良い見方もできるんですよ。できるんだけど奪えてもボールを失つちゃうよりは近くの味方に廻すとか中盤のボランチの選手にあてるとかっていう選択肢が沢山ある中で、彼がその選択肢もあるけどゴールに向かうっていう事だったらまあいいんですよね。これは想像の世界ですけど、2年前にただ勝つだけのリスクを犯さないサッカーをしていたとしたら僕は今の奈良は出来上がってないと。ゲームの内容でパスは廻るけど前に進んでいかないなっていうのは、選手が失いたくないっていう当たり前の事をやれるようになってるから安全なパスしか選択しなくなるんだけど、それさえもやんなかつたらそれもできなくなつて選手の価値としては、例えば当時500万円だった選手が3年後に1500万円になるよ

うには育たないと思ってるんでそういうトライをさせたと。良くも悪くもボールは廻るようにはなって一人一人は本当にうまくはなったと思います。去年の途中で財前からバルバリッチに変わったのは、うまくなつたとは言え少ない予算とは言え勝たなきやいけなくなつてすごく難しいバランスがあった。今度はボールを廻す獲られない事が正解だつていう意識から本来の獲られない事も大事だけどゴールに向かって行くのも大事つていう意識を選手に植え付けさせるため。伝わるかどうかわからんないですけどチームにとって何が正解かって本当にいろいろあって、選手は敏感に感じる。さっきの奈良の話じゃないですけどただクリアしとけばいい、クリアする事が全て正しいというチーム、指導者もあれば、そこで蹴っちゃうようじゃ終わりだよねっていうもっと高いレベルを目指しての事が正解のチームもあつたりして、どっちかっていうとまあこっち側でやってたんですね。失う事は本当にダメな事だつても選手はなっちゃうんですよ、成長の過程で。そういう事やってくとそこそこ能力はついてくるんで、今度は前に向かう。30人位しかいないグループの頭の中とかマインドを一変に変えるっていうのはすごく不可能な事なので、指導者を変えながら徐々に徐々に勝てる可能性の高いようなサッカーに変えていけるかどうか。これはある意味腕の見せ所と思ってます。何かありますかね、他に。

司会：大体一通り。

野々村：あんまりしゃべってもしようがないかなと思い始めちゃって、むしろ聞かれた方がしゃべりやすいかな。

司会：はい、予定では質問タイムはもっと後ですけども関東の方の質問はまとまつますか？ 関東の質問タイム入ても中継で向こう観てますか？ そうですか、今入れちゃつてもいいですか？ じゃあ1番のワイヤレス、関東サポにお渡しいただけますか？ では関東サポの方でまとめられた社長への質問、どんどん繰り出してください。

挙手者：はい、関東地区後援会川越と申します、よろしくお願ひします。

野々村：お願ひします。

挙手者：20ほど質問が来ます。

野々村：大丈夫ですよ、今日はもう質問がなくなるまでやりますから大丈夫です。

司会：社長、お座りになって頂いて。

野々村：いや僕大丈夫です。

司会：大丈夫ですか。

野々村：はい。

司会：では。

挙手者：はい、それでは一つ目。松山光プロジェクトの収支報告は予定されていますかという質問、集金額は多分出てたと思うんですが、具体的な使い道用途はまだ発表されてないと思うんですがその辺は出ないんでしょうか。

野々村：ある程度は出ると思いますよ、出す準備はします。すごく難しい所があつて育成と強化、要は強化にどう使うかっていう所になつてくるので。考え方としては特別なもの、遠征に行つたりユースの子達の移動費とか食費の負担とかはできたりもする。けどユース上がりの1年目の誰々の給料の一部ですみみたいな事まで果たして出す事が正しいのかどうか。こんな事に費用を使ってますっていうのは近い内に。来季どんな事に使いたいっていう様な事も同時に出せると思ってます。

挙手者：ちょっと下世話な話になります。

野々村：はい、どうぞ。

挙手者：社長のTV出演料はクラブの収入になってるのか個人の収入になってるのか。

野々村：これがなかなかすごいことしてね。僕は今までTVに出てお金をもらってたんですけど、今はほとんどお金をもらえない。要はギャラが発生しない形で。こっちからお願いして朝5時に行ったりしてるわけですね。個人的にはなんでTVに出てんのにお金もらえないんだと思いますけど。例えばギャラが発生するようなTVがあったとします。またいろんなところで講演はたくさんあるんで、そういうものは全部クラブです。以上です。(会場笑い)

挙手者：ありがとうございます。

野々村：いろいろあるんですよ、講演って言っても。この間も。あんまり言うとあれだな。たいそうなことをさせられて2万円ですみたいなものもあれば、普通に30万円ですというのもあったりするんですよね。セールスするのに、うちの社長ここでしゃべりますからって言って、クラブにお金が入るっていうようなことをしています。

挙手者：ありがとうございました。債務超過解消できそうという話がでてましたが、行政に返還しなければならない基金とかがあったと思うのですが、そちらは返還できているのでしょうか？

野々村：返さなきやいけないお金はあるんですよね。その金額を少しずつにしてもらったりというような交渉はできている。それでも結構な負担ですけど返しますよ。財務超過はみなさんのおかげもあって何とかクリアはできて、多分純資産が1500万円くらいはプラスにはなってるような数字で収まると思いますけど。だけど来年2000万円赤字だったらまた債務超過なわけですよ。それじゃ僕が考えるサッカークラブはやっていけないっていうか、5億円突っ込むこと自体が今のクラブからするとすごくリスクなことなんですよ。だけど勝つ確率をなんとか上げたいし、みんなでこんだけ頑張ってるんだからちょっと勝つとこ見せてあげたいなという思いもあるし、成長をとぎらせてはいけないと思うから突っ込むわけですね。去年がベースとすると、去年よりも1億円以上売り上げを多くしなきやいけないということは、1億円多く突っ込んでるわけですね。突っ込んで、その1億5000万円を回収するっていうやることをやるのが普通サッカークラブだと思うんですけど資本にまったく余裕がない。例えば資本金がまだ3億円残ってますというようなクラブだとしたら、今年僕らがやろうとするトライをして、うまくいかなくてマイナス1億円ですというようなことがあったとしても、資本から1億なくなっちゃって2億円になってはしまうけれども、債務超過にはならない。Jリーグのルールで3期連続の赤字もクラブライセンスアウトというようなルール。繰り返すけど、サッカークラブなんで選手を取ってチームを強くしてお客様を呼ぼうっていうような投資をするのが絶対必要だと思うんですけど。2年目もやったけどそれに失敗したとしても3年目は実際に足着いた経営をして黒字にすればクラブライセンスを与えますよって。積極的にやらないといけないのにコンサドーレはそれができづらい状況で、債務超過解消したけどたいして変わってないということはご理解いただきたい。資本政策をどうするかみたいなことはまたクラブとしても考えなければいけないと思ってます。

挙手者：次にクラブ運営に関してなんですか？も、昨年度クラブ向上委員会が2回しかやってないと言われてるんですが、せっかくやるならもっと生かしてほしいとか、積極的に推進してほしいという意見がでてますが、いかがお考えでしょうか？

野々村：クラブの中で担当していたものがそこまで回らなくなっちゃったって言うのが事実だと思います。来年に関しては月1回開催できるように、今話を進めています。マンパワーが足りなかつたというかスタッフも何人か途中でやめていたりもするんで、社内の事情ではあるんですけども今期に関してはもう一回やっていくってことになります。

挙手者：女子チーム創設の話なんですが、ノルディーアと関係性はどう考えておらっしゃるのか、北海道の女子サッカーについてどうしていきたいと考えておられるのか、ご意見をお願いします。

野々村：ノルディーアとの関係について特に何も考えてないです。ネガティブなことがあるとはまったく思ってない。女子サッカー、プレーする場がないのが現状なんですよね。小学生では男子チームに混じってサッカーしているけれども、中学校に上がると本當にない。北海道に限ったことではないんですけど、そこをカバーできるようにしたほうがいいという観点がひとつ。それから男子プロがあればいいっていうようなクラブとは思っていないので、いろんなスポーツの団体、グループ、コンサドーレにしたいと思ってます。その一歩として一番近い存在の女子チームを作ったってのが経緯ですね。協力したいと思ってくれる企業さんもすごく多かったのですごくいいトライをしたんじゃないかなとは思っています。

挙手者：次にアカデミーに関して。アカデミーの活動についての情報公開ですが、試合の予定と結果がでてますけども、練習試合や遠征の情報などがでてないという意見がありました。またプレミアリーグの公式サイト等にリンクするなどしてほしい。アカデミーの情報収集するのが大変だという意見が関東の方から上がってきています。

野々村：検討します。そこもマンパワーの問題ですよね。今クラブにいる広報でその仕事をやるとかっていうのは絶対に無理っていうくらい案件が多くて、新しい人をいれるか、またはユースとかジュニアユースコーチもできるようにするか、どっちかですよね。いずれにしてもかなりパワーが必要なので、うまいこと考えてやっていかないといけないんだと今聞いてそう感じました。

挙手者：あともうひとつ。アカデミーが注目されているので、アカデミーのユニフォームにもっとスポンサーをつける方向はどうでしょうかという意見があるんですが。

野々村：そこも去年まで線引きがされてなかった。トップチームのユニフォームスポンサーと契約をしているというような感覚で今までやってきて、ユースはユースで胸を売るとか背中を売るとかいうようなことがなかったので、それは別でというふうにしてます。

挙手者：ありがとうございます。次に選手移籍に関して。内山選手の期限付き移籍が提携していないチーム、シンガポールにいくことはどういった経緯があったんでしょうか？

野々村：僕の知り合いの知り合いです。（会場笑い）僕すごくいい連れがいるんですけど、そんなのどうでもいいですけどね。その友達、友達じゃないかな、親戚みたいな。なんらかコンサドーレと関係を持ちたいという話以前からあって、プレーする先として探っている中で、そのチームということになったということなんです、はい。

挙手者：あと情報発信についてなんですが、先ほどもいろいろご検討されているということなんですが、例えばチャオコンに横野選手の情報が残ってるなどマメにやってほしいという意見がでてますので。

野々村：それはそう思います。新しく3月から一人広報を取ろうと思っています。これがひとつの解決策かなと。能力の問題はもちろんあるけれどもマンパワーが足りない。2人体制を3人体制にして、なおかつ仕事の量を分散させることを会社の中では始めていると。そういうのは多いな、できないって。申し訳ないんですけどそんな感じです。

挙手者：英語のサイトに関しても同じような意見が出てたんでよろしくお願ひします。

野々村：HPもリニューアルしなくちゃいけないで、リニューアルするときに英語サイトも準備をするっていうようなことを考えています。

挙手者：その他、今こちらでトレサポの受付をなされているようですが、団体名はOKなんでしょうか。例えば関東地区後援会で入れられないかとか、どうなんでしょうか？

野々村：入れられなくはないとは思いますけど、こっちの決めの問題なんですよね。個人的には個人のほうがいいかなと。もともと背番号でやりたかったんですよね。公式戦の背番号にサポートしている人の名前を背負ってプレーしてもらいたかった。2mm×2mmくらいの顔写真を並べて、背番号にしたかったんですよ。そういうことし

ているクラブが海外にもあったのでやりたいなと準備をしていたんだけど、今年のユニフォームに関しては間に合わない。名前だったらプリントするのにもそんな時間もかからないんでできますとメーカーさんが言ってたんで、じゃ名前にしようとJリーグに聞いたんですね。結論とするとダメだっていうんですよ。ルールがあって、ユニフォームには政治的または宗教的個人的なメッセージやスローガンを入れてはいけないって。それは分かりますよね、どっかに変なスローガンを書いたりしたらダメだっていうの。個人の名前がほとんど見えないような形なのに、なんのメッセージスローガンがあつて条項にひつかかるのか僕には全然理解できないんですけど、ダメだと。サポーターのコアな人達には感覚としてわかつてもらいたくて、それをやろうとした。話ずれちゃいましたけど、そこに団体の名前がもし入るとするとなんらかのメッセージと取られてもおかしくないというか。関東サポの団体ですだったら悪くはないけど、企業の名前とかなんかの名前が入つたりするとつかれる可能性はある。練習着に関してはいいんだけども、将来的に背番号にそういうようなことをJが認めたときには絶対にできなくなっちゃうと思うのでまず練習着でトライして、Jに認めてもらって背番号でトライしたいと考えているので、できれば個人の名前のほうがいいかなとは思っています。

拳手者：ありがとうございます。次にメーカーさんの都合がある件だと思うのですが、ユニフォームの予約についてもう少し余裕のある納期にならないかというご要望があります。先行予約でも開幕に間に合うかどうか微妙なのはちょっとつらいという意見がでておりますが。

野々村：メーカーにお願いします。

拳手者：次に昨年度から月曜ナイターの試合が始まったので、今年度もありますが、その中でサッカーボー少年が観戦できるようにという主旨があったという思いがあるんですが、実際そういう効果はあったんでしょうか。

野々村：まあまあ、あつたんじゃないですか。普段これない人が来ているというのはあつたと思いますけど、もつとたくさん少年団に対してアプローチできるような。札幌サッカーリーグと連動してやつたときはすごく少年団の子達が親御さん含めて来てくれたりしたときはあつた。そもそも月曜日にやりたいわけでは全然ないっていうことですね。これもクラブライセンスの問題で、80%をライセンスで認められたスタジアムでやらなくてはいけないっていうルールがある。北海道にはライセンスで認められたのはドームしかないわけですよ。17試合やりたいっていうオーダーを出しても、そこは野球がそこはコンサートがみたいなことがあるんで、ああいうスケジュールになってしまっている。向こうに対して努力はするけれども現状ドームサイドからすると、それよりコンサートのほうが儲かるんだよねみたいなことがあるのは事実だと思います。じゃあどうするか。そのスケジュールしか組めないとなるとそこで最大値を出すような努力をしなくちゃいけない。もつというと他にいいスタジアムできないのつて考えなくちゃいけない、そんな感じです。

拳手者：はい、関東から午前中に集まった質問は途中お答えがあった分は割愛させて。

野々村：もう20個終わりました？

拳手者：はい以上です。ありがとうございます。

野々村：ありがとうございました。

司会：ありがとうございます。一旦休憩を挟みます。

野々村：じゃあみなさん、質問を考えておいてください。

司会：後ろの時計で15分まで10分間休憩させていただきます。

*****休憩*****

司会：扉を閉めていただいて、それではまた引き続き始めています。では、関東サポからひと通りご質問終わり

ましたので、ここにお集まりのサポータからご質問がありましたら、挙手で承ります。はい、淡路さんどうぞ。（会場笑）

挙手者：ドイと言います。

野々村：お願ひします。

挙手者：質問をひとつと、あとお願ひというか思いをひとつ伝えたいと思います。質問はコンサドーレから2年連続で選手を武者修行に出しましたタイのコンケーンが降格してひとつディビジョンが落ちたと思うのですけど、こちらも遠征計画立てるつもりでもあります、今シーズン派遣されるのかどうか。（会場笑い）それが質問ひとつです。

野々村：はい。今のところ言えるような予定はないですね。若い選手を外にレンタルで、今年も出しますけど、どういう意図で出すかみたいなところを僕の考えとして伝えます。チームは37人、今年いる。これは圧倒的に他のクラブより多いんですよ。なんで多いか、怪我人も含めて週末のJリーグだけのことを考えれば怪我人を考慮しても、他チームと同じように25～30くらいで全然いいと思うんですよ。だけど週の間に必ずトレーニングゲームをしなくちゃいけない。じゃあ相手がある程度のレベルで北海道にあるかっていうと、平日できるようなそんなチームはないわけですね。関東とか他の地域だったら陸続きなんでちょっと離れててもプロまたはそれに準じるチームと週末、ウイークデイにトレーニングゲームができる。でもコンサドーレはその相手がなかなかいなくてできない。だったらクラブの中である程度高いレベルの紅白戦をやらなきゃいけないので、そういうことも含めて人数が多いというところがひとつあります。だけどシーズンが流れしていくと、トーニングゲームで高いレベルが必要ない時期もあったりして、そこでゲームに関わっていない若い選手がプレーできるような環境を与えなきゃいけない、いろんなところにあたって武者修行に出すようにしていると。若いときにいたけれども最後までコンサドーレでプレーができる選手は普通に考えるとそう多くないんですよ。さっき話しましたけれど、14億円のチーム規模だったら何人か残れるかもしれないけど、こっちも20億とか30億にしていかなければいけないワケですね。20億とか30億になったときにはもっと少なくなるんです。コンサドーレ上がりの選手がプレーできる可能性はプレーしてほしいと思いますけどね。一応プレイヤーの先輩として、どこに行ってもできるようにならないと選手としてはメシ食えなくなるわけですね。で、いろんなところに選手出すのは、例えばタイ、タイでその選手がどれだけ活躍できるかはタイのサッカー関係者は見てる。最終的にクラブに戻ってきていい仕事をしてほしいっていうことを思う一方で、選手として自分の食える場所を探してくるということも、一人のプレイヤーとして絶対に必要なことだと思うんですね。だからタイにいって、タイのチームに認められて一段ステップアップするとかっていうようなことをクラブとしてお金を払ってでもさせてあげるってのは、選手あがりの僕としてはすごくありがたい仕組みを提供してあげてるってことには若いやつらには常々言っている。例えば1年2年でクラブを終わって次、うちが契約しないような選手が当然プロの世界なんかでてくると思うんですね。去年も一昨年も何人かいるわけです。それはどこの世界にもあるわけですけど。ルーキーの選手でも途中から入ってくる選手でも、やっぱりその選手の評価とか立ち位置っていうのはだいたい契約で決まるわけですよ。例えば3年契約をする選手、2年1年または半年契約の選手。その選手は契約の期間内になんらかの結果を出さないといけないというスタートポジションということは選手個人個人は分かっている。それでコンサドーレと契約しないというふうになったときに、日本的な感覚だと思うんですけど終わりだと思っちゃう人が多いし、多くの人がそう思ってる。だけど全然そんなふうには思ってなくて、このクラブで契約はしてもらえなかったとしても別のクラブでチャレンジできるわけですね。それができなかったら、その選手はサッカー選手やってる意味がなくって。日本ってプロ野球が長く、スポーツといえばプロ野球みたいな感覚でてるんで、6チームとか12チームしかない中で首になったらもう終わりだなっていう感覚が多くの人にあると。だけどサッカーはうちを終わったとしてもそれこそタイに行く、マレーシアに行く、シンガポールに行くというような選択肢は無限にあるですね。実際にタイでは60人くらいの日本の選手がサッカーをしていて、その中でJリーグ上がりなんて10人くらいしかいない。Jリーグに引っかからなかつたけれども、サッカー選手として生きて生きたいっていう思いを持った人達が50人くらいタイでサッカーしているわけですよ。東南アジアとか南米とか全部ひっくるめれば、みんなが知らないようなサッカー選手が多分何百といえるわけですね。昔よく寿司屋の職人は世界のどこにいってもメシが食えるというふうに聞いたんですけど、僕はサッカーのほうがよっぽど、どこいったってやれる可能性があると思っている。そのくらいのたくましさを。自分はコンサドーレでまずサッカー選手になった、そのきっかけを与えたのはコンサドーレで、そのあといろんなところに行こうが

プレイヤーとして強く生き残つていけるような感覚つていうのを若いうちに持たないと結構苦労するかなと。環境が恵まれないけど外にトライさせる。そこで表現させてアピールするのもひとつだし、その環境で学んで持ち帰つてきてうちのチームでやるのもひとつだしつていうような考え方で選手を外に出すつていうようなことをします。レンタル料としてお金をもらえばいいですけどほとんどがもらえない、もらえるところもあるんですけどね。奈良君はもらつてますから、大丈夫です。(会場笑)

司会：よろしいですか？

挙手者：丁寧にありがとうございます。

野々村：はい。

挙手者：そしたらひとつお願い的なことで厚別開催試合のことです。4試合というのは十分承知していますので、増やせなどというのは絶対言いませんので。開催日ですけれども、去年のシーズンであれば、5月31日から6月28日の4週間の間に3試合して、10月に1試合。今シーズンは7月に厚別開幕戦があつて9月下旬から11月1日あまりの間にまた3試合。いろいろと日程の制約があるのは承知させていただいておるんですけど、出来ましたら好きな4試合を気候のよい5月から8月9月の間に月に1試合ずつくらいいただけたらなど。

野々村：僕もおんなじ思いですけどね。

挙手者：今年は11月1日という日がありまして、他のプロ競技の日程は全然しらないんですけども、航空券押さえておるのに突然またドームに変わるとかいうことのないようにお願いしたいというそのような思いです。よろしくお願いします。ありがとうございます。

野々村：最後のあれですよね。野球が使わなかつた場合はという話ですか？

挙手者：はつきり言ってそうです。2週間くらい前になつて、ひと月くらい前になつて変更しますというのがあつたら困るよなという思いです。

野々村：それはすみません。困るのはなんですか？

挙手者：やっぱり厚別のほうに行きたいから。安い航空券とかいろいろとつておるのに。できれば厚別で見たいという思いからなんです。

野々村：はい。最後のところはちょっとなんとも言えないですね。厚別がすごく好きだつていう人達がたくさんいることは全然よくわかつてます。でもそれはコアな人達であつて。その人達を別にないがしろにしているわけじゃないですよ。ないわけではないけれども、やっぱりサッカーを見る環境が進歩しない限り、サッカーは終わつていく可能性が結構高いんですね。伸びていかない。イタリアがうまくいかないのはスタジアムがそんな感じのところばかりになつちやつてるからで、ドイツがうまくいってるのはスタジアムがきれいで、イングランドも同じ。25年前にできた厚別で、初めてちょっとあそこに行ってみようかなつていうふうな感覚を持つ人は少ないんですよ。そこはご理解いただきたい。野球はどうなるかわからないんですけど、もしうちが使えそうだった場合は変える可能性が高いと思います。先に謝つておきます。

挙手者：間際まで航空券とらんようにします。

野々村：はい、もう。あとはスケジュールですけど、多分全試合ドームでやる前提で投げてるけれども月曜がでできちゃうとかということよなので。さつきも言いましたけど、それを改善するには新しいスタジアムがあるとか。そんな感じです。

司会：はい、ありがとうございます。じゃ、他にご質問。はい、どうぞ。

拳手者：よろしくお願ひします。ふたつよろしいでしょうか。まず今何度か出ているサッカースタジアム。

司会：あつ、すみません。お名前を名乗ってからお願ひします。

拳手者：セリカワと申します。スポンサーのひまわり所属です。

野々村：お！ありがとうございます。

拳手者：無料提携チケットありがとうございます。何度か出るサッカースタジアム建設なんですけれども、僕も何十年とコンサドーレが続く中で絶対必要なものだと思ってて、実際にドイツに2年前行ってきましたスタジアムを見てきたんですよね。例えばバイエルンだったらメガストアっていうスタジアム内にすごいでかいGOODSショッピングがあって、ずっと人であふれてる状態でっていう楽しみがあつたり。実際に試合見たのはデュッセルドルフ、すごい寒かったんですけど階段があるところほぼ全てにトイレがあつたり。スタジアムをよくすることによって多分ドイツは成功したと思うんですよね。もし将来コンサドーレがサッカースタジアム持った場合に、今のなんとなるのイメージでいいんですけど何万人規模でどの位置にあって、こういったサービスがあればいいんじゃないかというのがなんとなくあれば教えていただきたいです。

野々村：はい。規模は2万人とかですね。3万？2万人くらいでいいんじゃないかな？まあわかんないです。わかんないって言うのは、いつそれを実現させようと思うかで違うと思うんです。今実現させようと思っても、何年か後になるわけですね。で、今のコンサドーレの大きさからすると、集客も含めて考えると2万人でいいかなと。もしかしてなくなっちゃうんではないかというふうな感覚ももてるくらいスタジアムには今的人数でもたくさん見えたりする。そのくらいでいい。当然だけどアクセスはよくないといけない。大駅の近くで、どういう場所があるかつていうことを考えないといけない。もうひとつは週末のゲーム以外でどうやってスタジアムまた近辺を稼動させるかということを考えないといけないので。ごめんなさいね、個人的な感覚というか考えですけど、コンサドーレ幼稚園があつてコンサドーレって名前じゃなくていいですけど元気なおじいちゃんおばあちゃんが住んでるようなところがあつて、おじいちゃんがおばあちゃんが子供の面倒をみるし、うちのスタッフとかサッカー上がりの選手が練習してないピッチとかトレーニングするようなところで子供達と遊んだり、おじいちゃんおばあちゃんと遊んだり、日常がそこにあるようなものを作つて。日常があるってことはスーパーマーケットかなんか分からぬんですけど、多くの人が常にそのエリアを中心にある程度生活ができるようなもので収益があがるものを作つていうようなイメージを個人的には持つてます。作るにあたつてはお金が必要なので、どういう形で集めるかということも当然考えなければいけないし、行政と関係なくできるかっていうとそれもなかなか現実的ではないので、いろんなところうまく話をしながら詰めていけないといけないことだなとは十分認識してる。みんなでお金を作つていうようなイメージで考えてはいます。はい、いいよ、どうぞもういっこ。

拳手者：社長がJリーグラボでガンガン推していたアジア戦略、結構話題の出る。今Jリーグでも全体的に進めてて、正直日本国内の市場が頭打ちの中で今後絶対必要だとは思うのですけれど、コンサドーレは積極的に行ってまして、レコンビンだったり今年のイルファンだったりで、将来的にはイルファンが活躍してくれればGOODS等の収益などなどいろいろあると思うのですけれども、ここ何年も提携クラブを増やしたり工夫したりしていく中で、最終的にアジアのお金がヨーロッパに行つてはいるのを日本に流れてくるのは理想だと思うのですが。コンサドーレがアジアのお金流れるような仕組みになるために、こういったのが究極の形といいますか、うまくいって。

野々村：これはコンサドーレが独自にやって放映権を取るっていうことなんんですけど、プレミアリーグには何百億円というお金が行くわけですよね、放映権で。東南アジアの人達はイングランドプレミアリーグをたくさん見るので、それだけのお金が向こうに行つてると。リーグとしてやらない限り、コンサドーレにもある程度の大きなお金が落ちてくるとは僕はあんまり思つてない。だから、Jリーグがしっかり認知されるまずきっかけになるために、うちのクラブから始めようっていうようなことで始めている。それとは別に、最初にも言いましたけれどサッカーブラジルの価値をしっかりと国内の人に認めてもらうためにも、アジアに出て行くことで、北海道のプロモーションになつたり札幌のプロモーションになつたりっていうようなことを、ベトナムだけじゃなくていろんな提携している国などにかをすることでPRできるじゃないですか。間接的に北海道に来るお客さんが増えるとか、そのきっかけ

けがコンサドーレだったっていいかなという二つの側面でアジア戦略をトライしているっていうそんな感じですよね。レコンビン取っていくらもうかったのかみたいなことをよく聞かれますけど、もう3年前くらいだからいいんですけど、あれで2~3千万くらいもうかってるんですよ。そのくらいのことをちょこちょこやりながら、いつの日か数億円とかっていう単位でお金になるかどうかは、僕らというよりリーグの頑張りがないとダメだと思ってます。

挙手者：ありがとうございます。

司会：はい。その他に後ろの方、どうぞ。ちょっと見えないです、すみません。

挙手者：タケダと申します。先ほど関東サポからの回答の中で、前期末は1500万円の純資産が生じたといって、正直言いましてびっくりしました。確かその前の年、3000万超過でしたから4500万くらい黒字になったと思います。それで、今年2000万赤字だとたちまち債務超過になると。その通りだと思います。貯金マイナス500万円になっちゃうということで。で、例えば一昨年から石屋製菓さんが結構寄付金とか出してくださったと思うんですよね。一昨年だと8500万円だったはずです。おそらく去年もそれなりにスポンサー料のほかに寄付金出していただいたとは思うんですよね。

野々村：去年は出してもらってないですよ。

挙手者：出してもらってないんですか？

野々村：はい。

挙手者：そしたらお金の費目課目は違っても、一昨年は特別利益として寄付金名目で8500万円入ってたんすけれども。それでスポンサー料1億2000万と別口で入ってたんですけどね。昨年度はそしたらスポンサー料は増えたとかないのですか？

野々村：そういうことですね。だから石屋製菓に限らずですけど、クラブのひとつの仕事でもありひとつの努力の結果だと思いますけど、上積みしてもらうというような作業をして、石屋製菓さんもその中で今までとはまた違った金額で契約したっていうことになります。

挙手者：あっそうすると、おそらく増えたんだと思います。

野々村：それはもう、もちろんもちろん。

挙手者：じゃあ、他の企業さんも増えたということですか？

野々村：増えたところも新規で入っていただいたところもあるし、それこそひまわりさんもそうだし。今期に関して言うと例えばサッドラとかね、チッチのノーザンホースパークとかそういう仲間は少しずつでも増やしていくかないと。2年前から前年よりも1億円ずつ増やさないといけないっていうような中でまわしてきているので、協力してくれてるところは増えています。

挙手者：わかりました。寄付金という形でもスポンサー料でも結構で問題ないんですけども。最後に今年5億円の強化費予算は非常に冒険だといわれたんですけども、去年から4億から5億と増えたんですけど、そうすると今年の収入もそれぞれ興行収入とか広告料収入だとか、それぞれみんな去年より更に増えてるんでしょうか？

野々村：あのだから、確定はしないのがサッカークラブの難しいところなので、増やすようにしなきゃいけないっていう、そういう感じなんですね。

挙手者：参考までにもしよろしければだいたい今期の予算、興行収入とか広告料収入とか販売収入とかその他収入

とか分配金とか内訳大まかでいいので。

野々村：ええ、いいですよ。

13年シーズン結果と去年の結果から言うと興行収入、お客さんからいただくものがだいたい13年シーズンが3億3000くらいだったんですよね。で、去年が4億弱。今年はそれを4億5000くらいにしないといけないというか、チャレンジしなきゃいけないと思ってます。スポンサーの広告収入は13年が4億3000くらい。去年が5億9000弱。それを今期は6億4000くらいにするような努力をする。あとはGOODSとか販売収入が13年が1億3000弱。去年が1億5000。あっごめんなさい、間違ってる。販売収入1億4000ぐらいがファンクラブ会費とか選手の移籍金とかっていうような物ですけど、それは平年通りぐらい何とか維持出来るよう。ただここは移籍金が入るような所なので、ある選手が来年どうなるかっていう所でだいぶ変わっては来ますけど。心配な方がいるかもしれませんけど、ある選手の事はあれですよ。そりやあしっかりいろんな握りがされてますから心配しないで下さい。ある選手がそれなりに活躍すると何千万円、そんなに活躍しないと何千万円みたいなオプションは付いてます。ただ行使するかどうかは向こうが決める事なので、やっぱりお戻りくださいと言われる可能性もありますけど、そん時はうちで頑張ってくれりやあいい。後は何があったかな。グッズとかの収入、予算ですけど13年が7600万、去年が9000万、それを1億ちょいぐらいにしたいなっていうような数字。Jリーグの分配金は大体1億で毎年J2だとそのくらいなので、それを維持出来るようにしましょうっていうような感じですかね。

挙手者：いろいろ、大変詳細にありがとうございました。

野々村：だからこれ、大変だな～って感じするじゃないですか。何とか、皆でちょっと頑張りましょうよっていう。

司会：はい、ありがとうございます。他にありませんか。はい、真ん中の方。お名前を名乗ってからお願ひします。

挙手者：スドウと申します。宜しくお願ひします。個人的な感覚ですけどもスタジアムの広告の事なんんですけど、SS席の所から見てもB自由席の方の広告が見えない。B自由席にいてもSSの方の広告も見えない。

野々村：同じ広告が両方見えない事ではなくて、見えない広告があるって事ですね。

挙手者：札幌ドームのホバリングステージが高いから見えないんだなって思うんですけども。ただスカパーとかで他のチームの試合とかを見るといろんな広告が見えるんですけども、やっぱりテレビではコンサドーレの広告は映らないなっていうのが感覚であるんですけども。

野々村：テレビだと映らない。

挙手者：テレビでも見えないなって感覚があります。スカパーのたぶん一番最初の解説とかが紹介している所、スタジアム全体映してたら見えるかもしれないんですけども。後はピッチの広告しか僕は見えないなって感覚を持っていて、たぶんドームが出来てからずっと同じ感覚を持ってて改善してもいいのかなっていう風には結構思って。

野々村：うん、確かにまあね。誰がどう見た時に効果的かみたいな事。今言ったみたいにスタジアムで見た時に見えないけど、テレビだとすぐ～見えるみたいな置き方を本来はすべきなんだと思う。なぜならテレビを見ている人が圧倒的に多いと考えるから。だけどスカパー見ている人、どんだけいるのかなとかっていう事を考えると、何が正しいのか難しい所ではあるけれども、見やすいようにもうちょっと上げた方がいいんじゃないと、同じような質問はよくされたりするんですよ。ゴール裏のもうちょっと高くした方がいいんじゃないかとかっていうような事。だけど、高くすると今度はテレビに映なくなったりするんで、これが、普通に地上波で流れてるかっていう事で、視聴者が圧倒的にそっちの方が多いんだったら、完全にテレビ用の置き方にすればいいと思うんですけど、その所がまだ。もしかすると両方とも見にくい所あるかもしれないけど、もしかるとしたら改善した方がいいなとは思う。けれどもそもそもスタジアムの人が見る事を期待した広告なのか、画面を通して見る人を期待した広告なのかを考えたいんだけど、どっちが本当に視聴者が多いのかが数字としてよく分からないので、ちょっと中途半端になっている事があるかもしれない。クラブとしても、もう一回そこんところは検討した方がいいなと常々思っては

いるんですけどね。今日営業もいたりするんで検討すると思います。

拳手者：あと、今年の楽しみのひとつとして、札幌ドーム大型ビジョンふたつ出来ると思うんですけども、何か具体的に面白い事とか考へてるんですか。

野々村：ごめんなさい。その会議に出てないんで何ともわかんないんですけど、考へてはいるんだと思う。個人的には折角ふたつあるんだから。あのビジョンを全然活用出来てないなというのはあるんですよね。スタジアムに来た時に映るだけで楽しいじゃないですか。だけど全然映さないじゃないですか。それにもまあ理由があつて、映す為に専用カメラを一台入れなきゃいけない訳ですよね。テレビ中継をする方にとっては、人件費とそのカメラ代で製作費を使わなきゃいけない訳ですよね。その予算がないから、人が足りなくてスタジアムを追っかけるようなカメラがピッチ上に置いてない。そこをクラブがお金出してでも一台入れてもらって、それに映る事が楽しいっていう人達が増えてお客様が入ってくるかどうか。シーズンを通して何百万円使って、何百万円以上のお客さんが来る様な事が出来るかどうかっていう所を、ちょっと考へないといけないな。もちろんテレビ局が勝手にカメラ出してくれればいいんですけどね。そういう使い方はしたいなとは思っています。あと、何かありますかね。他に何か楽しい使い方。オフサイドだったらずっと流してやりますけど。(会場笑)

拳手者：まだ全然イメージは湧かないです。昔福岡に行った時、たまたまヤフードーム行った時は5つ確かビジョンがあったと思うので、全部違う映像が流れてたのはすごい印象的で覚えてます。試合前とか、試合中もそうですね。ホームラン出たら、それはすごく良かったなと思うんで。

野々村：その辺は考へた方がいいよね。オフサイドのさつき話しましたけど、微妙な判定は流さないようにというようなの、たぶんあるんですよね。でもうちがもしやられたら、流してやりたいですけどね。(会場笑)

拳手者：ありがとうございました。

野々村：はい、ありがとうございます。

司会：はい、ありがとうございます。そちらの方、次当りますんで。ここで時間が来ましたので、サポーターからの連絡をされたいという方、CVSの方とかいらっしゃりますか。はい、ではCVSの方発表して頂くのと関東サポの方からも連絡ありましたよね。はい、まずCVSの方から先に。すいません。社長、ちょっとお座り頂いて、申し訳ないです。サポーター間の連絡に移らさせて頂きます。その後質問させて頂きますので、すいません。

CVSの方：皆さん、こんにちは。今日は丁度近くにメンバーがいまして、私達CVSで普段スタジアムで皆様をお迎えしております。皆様、試合の運営、席詰めなどご協力ありがとうございます。今回チラシを手元にお配りして、早めに来た人にはあたってない方いらっしゃるかもしれません、後ろの方に用意しておりますので、良かつたらご覧頂きたいと思います。今年度もCVSスタッフ募集をしております。宜しければ是非ここにいる皆様にもお仲間になって頂きたいなと思いまして、今回お時間を取って頂きました。今回冬の期間にボランティア担当の社員さんに、私達がやる事の経済効果って何という事を実際聞きまして、先日回答がありました。それが稻本ひとり分だよという回答を頂きました。つまりそのくらいの効果があるという事と、先程スタジアムのお客さんを映すのに数百万円、という事は我々少し足りない感じなんです。もし皆様が、大体100人くらいの方が入って頂けるときっとテレビ代も稼げるのではないかと。我々がやるとバイトさんが減ってその分。もうひとつ、CVSが出来た経緯は皆さんご存じの通り、コンサドーレにお金がなくてその分の試合運営をボランティアでという経緯があったと思いますが、ここ数年試合運営参画するっていう場面が多くなって来たと思います。まずは来場してきたお客様に対して楽しくて安全な観戦を提供する。例えば初めてきたようなお客様が楽しく安全に観戦して頂ける事で次の来場に繋がり、それがどんどん繋がって来る事によって我々のようなコアサポに誕生し、その中でまたスタッフになって頂けると。実際試合運営に関して意見を言う事もあります。実際活かされる経緯もありますし、例えば札幌ドームの大階段ありますよね。あそこは、今年か去年ぐらいのシーズンから手すりに「ここにお座りにならないでください」という表示をしてもらえる事が出来るようになりました。その意見も我々ボランティアスタッフから、手すりの所に座っているお客様がいらっしゃるので何か表示があるといいのではないでしょうかという意見が実った成果もあります。最後になりますが、チケットを買ってグッズを買ってコンサドーレに寄付をするっていうサ

ポート活動もありますが、是非その中でC V Sで試合運営のスタッフとして、チームに貢献をしていきませんかというご案内でした。もし宜しければ、チラシの方に案内先が書いておりますので、是非今シーズンからお仲間になって頂きたいと思います。ありがとうございます。

司会：ありがとうございます。（会場拍手） C V Sの皆さんにはピッチに背中を向けて応援して頂く、我々と同じサポーターでございます。我々サポーターもジュースを飲んだ後やお弁当がらを自分達でゴミ箱へきちつと持つて行くというのも、やっぱり仲間であるC V Sがそれを片づけてくれている、仲間に迷惑を掛けてはいけないという事からひとりひとりがきちつとゴミ箱に物を捨てるようになり、それがアウェイの所謂他チームのスタジアムに行ってもゴミをきちつと片づけて帰るというのが、やっぱりコンサドーレサポーターのいい所だと思います。ほんとにC V Sの皆さん、ありがとうございます。これからも、宜しくお願ひします。それでは関東サポの方からの連絡お願ひします。

関東サポの方：関東後援会関東地区後援会からお知らせをさせて頂きます。来る開幕栃木戦、関東地区後援会はクラブパートナーのJ T B北海道様と一緒に関東からの応援ツアーバスを企画しております。新宿から5300円、もう一台は当日羽田から5700円で栃木スタジアムまで往復。帰りは新宿着になりますが、当日移動される札幌から北海道から来るサポーターの為に一台、羽田から準備する事を計画しております。ここ2、3日中に新宿の方を先に募集しまして、その後に羽田から栃木まで行くバスを募集致します。この話を皆様の中で広めて頂きたいと思いますし、当日移動で栃木に向かう方は是非関東地区後援会のバスツアーで移動して頂ければと考えております。ご協力をお願ひします。以上です。

司会：はい、ありがとうございます。その他にサポーター間の連絡ございませんでしょうか。皆さん、ご予定もありましたので、近い時間にしたかったので間に挟めさせて頂きました。それでは社長申し訳ありません。質問の方、続きます。すいません。お願ひ致します。お名前を名乗ってからお願ひ致します。

挙手者：オオタケと申します。3点ほど質問と、あとお願ひと言うか。まず先程社長から選手の話があったんですけども、あの選手は。社長の中では向こう側が、来年度握ってるみたいなっていうのがあったんですけど、私の中ではうちが今年度J1に上がって、そうすればあの選手は戻って来るっていう選択は、例えば社長の中にあるのかな。

野々村：それはもう、全然ありますよ。そもそもが、うちでやれよって思ってますから。まあ、だけど本人の気持ちも含めてわからなくはないので、今みたいな形になってるんで、うちが上がって戻って来たいと言うなら戻って来る事になるんじやないですかね。まあ、その時には何千万円がなくなりますけどね。

挙手者：まあお金というかやっぱり、ほんとにあの選手ユース上がりだし。私としてはですよ。まさに松山光プロジェクトの、まあ荒野選手もいますけど。

野々村：まあそうですよ。そりやあもうほんとね。そう思いますけどね。戻って来たいって思えるようになるには、やっぱ、でっかくならないとそれは思わないと思うんですよ。まだまだ20そこそこの奴が将来ヨーロッパでやりたいとか、日本代表でやりたいとかっていうふうに考えるのは当然の事なんで、だから残念だけれども皆さんも含めて僕らは、クラブをどう大きくするかっていう事をやって行くという。サポーターとしてそのゲームに勝つ事を応援するという事もサポートですけど、そもそもやっぱクラブを大きくする方がよっぽど勝つ確率を早く高められるって、そっちをやれば彼も戻って来ると思うんじやと思うんですけどね。

挙手者：分かりました。二つ目が稻本選手。獲得ってなったんですけども、会見の時に一番最初に声を掛けてもらったって。結構、それって色んな選手が良く言うじゃない、最初に声掛けてくれたから決めたんだって言うのを。いろんな選手聞く中で、稻本選手は確かあれ2日後にオファーもらったというふうに言ってました。ただ、あの時期って来季の編成に向けて、いろいろ来年の予算とかも含めてどういう選手を取ろうかっていう時期だと思うんですよね。で、特に今年の場合バルバリッチ監督との来季の契約の中で、何となくバルバリッチさんもやるにはこういう選手が欲しいよっていうのもあったのかなと思いながらも。そういうのってやっぱり私の中では三上GMを中心となっているのかなとも思うんですよね。ただ、2日後のオファーっていうのはトップが決断してやらないと出

来ないような気もして。となると何か野々村幹みたいな、社長がこの選手欲しい時は、俺はやるんだみたいなのがあるのか、三上GMと話しながらイナにオファー出そうつかって決めたのか、ちょっとその辺を聞きたいんです。

野々村：ああ、なるほど。別に何でも喋っちゃうからいいんですけど。今の野々村幹です。何でそうしたかというとですね。稻本は当時、川崎と来年契約はないって事は外にも喋ってなかったけれども、新聞に出たんですよね。来季もないんじゃないかと。おっしゃる通り、バルバリッヂとか強化担当とかとも話をして採るのが当たり前なんだけれども、僕は絶対採った方がいいと思ったんですよ。で、すぐに電話をしたいけど電話番号わかんないんで、うちにいいスカウトがいるんですよ、小野信二っていういいスカウトが。(会場笑) 信二に電話をして、ちょっとイナに電話しろって言って、金はないけど絶対一緒にやりたいっていうふうに連絡をさせたんですよね。その敏腕信ちゃんが3分後に折り返して電話掛けて来て、いや、イナ良い感じですよって。(会場笑) お前、金ねえって言ったかって言ったら、言いましたって。それで当然事後報告。って言ってもまだあの時決まってる訳じゃないので、こういう話をしたいって事は、三上中心に現場監督とかにも話をして、デフェンダーだったらこいつかこいつかこいつを採りたいっていうような選手が当然、当時もいたんだけれども、そこに急に稻本が入ってきて、じゃあどうするかみたいな話は彼らでつめてもらったっていうのが事実です。でも、早めに言って良かったなと思いましたよ。小野信二、良く頑張ったと思います、僕は。

挙手者：じゃあ、社長ですね。その野々村幹に私的には今野を、ちょっとこう入れといて頂けると。

野々村：もうとっくに入っていますよ。

挙手者：あ、入ってた～。(会場笑)

野々村：だけど、今の人だったら無理ですよね。今のままっていうのは、じゃあ今野一体幾らもらってるんだっていう話と、うちのこの規模でその選手を。いいんですよ。じゃあ幾らもらってるか知らないんですけど、ちょっとお前じやあ1000万で来いって言うのは自由んですけど、来ないでしょ？ それを、もうちょっとクラブも大きくなり、今野の給料も若干下がりっていう所がうまくハマる頃に、そういう事があつてもいいかなとは思います。でもね、そう考えるといろいろいっぱいいるんですよ。いるでしょ？ いっぱい。そこは難しいとこですね。

挙手者：次ですね。社長って、今住民票って東京ですか？

野々村：いやいや、それが札幌なんですよ。(会場拍手) そんな拍手はいらないですよ。札幌、札幌です。

挙手者：いや、何で聞いたかと言うと、今度知事選があつて某男性キャスターがたぶん出るだろうと。某男性キャスターが去年までやつたラジオ放送で、コンサドーレの番組って石屋製菓さんがスポンサーでやってて、結構あの方、某キーパー推しとか、何試合か来られてたようなんですね。知事の方でキックインに何か来た記憶あるんですけど、正直そんなにサッカー、コンサドーレについていう気はしてないんですね。だからもし、あの方がなつたら、道から借りているお金のとかもそうなんですけど更に何かもうちょっとやろうかとか、その男性の方と個人的に交流とかあるかなと思って、ちょっと聞いてみたんですけど。

野々村：ないですね。住民票の話はどこに行ったんですか？

挙手者：住民票は選挙、投票できるんですよ。

野々村：選挙、そういう事ですね。ないですね。ないけど、そういう人達のスポーツに対する考え方が変わって欲しいなとは思います。それはほんとに。でも、クラブの仕事している以上、政治の事についてはコメント出来ないので。なかなかそこは。はい。

挙手者：最後にお願いというか、さっき稻本選手獲得の時に、小野選手は稻本選手に、コンサドーレはとても志の高いチームだと、でもお金はないよっていうふうにくどいたって聞いているんですけども、正直、それってすごく大事というか、私はすごく感動した。実は介護施設で働いている人間なんんですけど、正直給料安いですし人手も少

ないし、上の人から誰かいないかって言われるんですけど、自分の働いているとこに魅力がないと説えないと思うんです。でも、小野選手はそういう形で、うちのチームをすごく志を高いっていうふうに言ってくれてるので。社長も今回3年目で、たぶん結果が求められるシーズンじゃないかなと。

野々村：何の？

拳手者：J1昇格。

野々村：さっきまでの話、聞いてました？（会場笑）

拳手者：いや、そういう声も出てくるんじやないかと。

野々村：出てくる事は全然悪くはないとは思いますけど。それよりも皆で他にやることあるでしょっていう事が分かった上で、ある程度競争出来る所まで、僕らも含めて皆で作った上でそれで結果が出せないのは、それは何らかの事を言われてもしょうがないと思いますけど。繰り返しになりますけど、僕らまだそこのスタートラインに立てないですからね。だけど、皆で頑張って、うちのクラブの規模からしたら本来だったら用意できないようなプラス1億円くらい使って、それを追っかけるような仕事をしようよって言ってる中で、その結果をもし求めるっていう事が、僕の今年のミッションだとしたらそれは受けないです。

拳手者：その責任の取り方って辞めるだけじゃないと思っているので。逆に今の社長の言葉聞いて、うちが今年どういう結果になるかわかんないけど、社長はまだうちの社長、いやたぶん社長だったらどこに行ってももっと活躍できると思ってるんです。もっと高い給料もらって。

野々村：ありがとうございます。

拳手者：今シーズンがどんな結果になろうとも社長にはまだ社長をやって欲しいので。

野々村：僕は簡単っていうか、勝つか負けるかはある種現場がどのくらい回るかっていうことですよね。ここにたくさんいい選手を揃えていい監督、指導者を置くっていう様なものがないと確率が低い訳じゃないですか。その確率を高める為に、今経営をしている訳ですよね。だからさっきも言ったけど20億くらい、要は2000年のシーズンぐらいの規模にする事が僕の仕事な訳で、少なくともそこまで行くようにどういうふうに仕事するかっていう事をやろうと思ってるから。それと結果とは別物だという事をちょっと考えた方が良くて、その辺が理解出来ないと、応援の仕方が困ると思うんですよね。結構この2年間で思うのは、最初にも言いましたけど昇格する、しなきやいけないくらいのチームと思って応援している人と、僕が今日話したみたいにまだまだちょっとちっちゃくて全然足りないけど、その中で何とか上がって行こうよっていうスタートラインにいるって事が分かって応援する人とでは、全然、その結果に対する思いが変わってきちゃっていて、そこが何かこう一体感をまだ埋めてない所だと思った。ちょっと話ずれるかもしれないけど、ジャイアントキリングって今年言い続けてるのは、自分達のクラブの現状は、手前味噌だけどちょっとずつは良くはなってるけどまだまだ足りないんだっていう事を分かった上で応援するっていう事を楽しむって事をしていかないと、6位に入れなかったらもうまったく駄目だらうみたいな感じになるのは、ちょっと違うかなとは思う。僕は辞めろっていわれるまで辞めないですから大丈夫です。

拳手者：分かりました。ありがとうございます。

野々村：ありがとうございます。

司会：はい、ありがとうございました。その他にご質問ございませんか。はい、拳手された方、お名前を名乗ってからお願ひします。

拳手者：オザキといいます。宜しくお願ひします。関東サポの方も聞いておられると思うんですけども、先程CVSのご案内させて頂いたんですけども羽田空港から1時間半、そっから更に1時間、2時間半で札幌ドーム着きま

すんで、関東なら十分通勤圏かなと思いますので、是非宜しくお願ひしたいなというふうに思っております。

野々村：今、関東の人にアピールしたの？

挙手者：今・・・。質問なんですけども2点程。まず若手選手の事なんですけども、先程社長、小野や稻本も入った中で乗り越えて行かなきやどうしようもないって。僕もその通りだと思うんですけどもコミュニケーションの問題ですね。ブログで目についた事なんですけども、例えば都倉選手があまり若い奴が絡んでくれないみたいな事を言ってたっていう話が流れてたり。砂川のようなベテランがいて小野や稻本のような誰も知っている選手がいて若手がいてって感じで、そこの選手同士のコミュニケーションって上手くいってるって、社長率直にお思いかつていうのをお聞きしたいと思います。

野々村：上手く行ってるか行ってないか、行ってなくはないんじやないですかね。30何人いるんで、どのチームもそうですけど、皆が仲良しへ事はまずあり得ない。若い選手が上の人に気を遣い過ぎてるかもしれないみたいな事かな？今聞いてみたい事は。それは気遣って当たり前だけど、気遣ったままで選手が伸びないんであれば、僕の感覚ではそういう奴は終わってけっていう感じですよね。荒野みたいに、バカみたいにコミュニケーションを取るような奴は生き残っていける。勿論ベテランは、それなりに気を遣って若い選手に話し掛けたりっていう事は普通にしますよ。でもそれ待って自分のパフォーマンスが上がっていかないのは、それも能力なので、そんなに気を遣う必要は僕はないと思います。むしろ悩んでいる若い選手、当然いるので、そこはコーチとかがまずはフォローはするんだけど人間なので、教えるも上手くならねえなっていう所で多少見放すじゃないけど、あきらめる様な時ってやっぱあるんですよね。その時にはピッチにいないうちのスタッフとか、僕も含めてちょっとフォローはするっていう様な感じで考えてはいます。若いのはあんま甘やかさない、それが基本です。

挙手者：分かりました。ちょっと伺ってみたかった。例えばブログの事もそうなんですけども、去年ユースがプレミアリーグは何とかセーフって事だったんですけど、残念ながらそっちの方まで試合観る時間なかなか取れなかつたんですけども、聞く話によると試合中もあんまり声出てないみたいな。その辺でチーム全体としてあんまり上手くない人が多いのかなっていうのが、ちょっと気になったので聞いてみたんですよね。

野々村：どうだろうね。コミュニケーション能力は足りない、若い選手。それもあるかもしれないですね。もう教えていくしかないでしょう。例えば高校生でそれが出来る奴なんてそんな多くはないので、教えていくしかないかな。元々持ってる資質もありますけどね。うちのチームが最終的に強くなるって事もそうだけど、本人が将来生きて行く上でもいろんな事を教えてあげないといけないとは感じます。はい。

挙手者：教えるって事なんですね。

野々村：まあ、教えるっていうか感覚でやっていくしかない。若い選手と話せばそう言う事はありますけど、特にじやあ講義しますってやるような事でなかつたりしますからね。その辺は上手に。そういう事も出来る人がピッチの上にいてくれる方がグループは良くなるし、若い選手も良くなるんで、ベテランたくさん置いたり、コーチ達にはそういう所のケアもする様にっていう話は強化サイドとかからも僕からもしています。

挙手者：分かりました。引き続きお願ひしたいと思います。ここまで一回もこの話が出なかつたのでお話させて頂きたいんですけど、Jリーグが2ステージ制になるじゃないですか。Jリーグにお金が集まるように、率直に言うとそういう事なのかなって思ったりするんですけども、社長どう思ってるのかなって。

野々村：たぶんね、始まりはJリーグがもっと。簡単に言うともっと潤わなきやいけない訳よね。さっきの話じゃないけど、プレミアリーグとJリーグの差は圧倒的な訳で、じゃあ20年前そんな差があつたかっていうと全然なかつたんですよ。なんでJリーグが潤わなくなってしまったかみたいな事を考えた時に、やっぱり資金が必要だろうと考えたんじゃないですかね。どっちが先かは難しいんですけど、2ステージ制にして盛り上がりを分かりやすく見せようとしてるじゃないですか。どんな理屈かと言うとファーストステージ、セカンドステージがあれば、開幕で盛り上がる。なんで盛り上がりが必要かと言うと、さっき僕が話したのと同じで、いかに多くの人に情報として届けられるか、要はメディアがどんだけ扱うかっていう事が需要だっていう理屈だと思うんですよね。メディア

が扱えば、新しい人が来るっていう循環をどう作るか。ファーストステージで盛り上がって、セカンドステージで盛り上がって、最後でまた盛り上がってみたいな物があると、そこにスポンサーとしてくれる企業が出てくる。Jリーグの話だと10億円ぐらいのお金が年間増えるっていう。その10億円を新たな投資に使ってもう一回Jリーグ自体を盛り上げようみたいな理屈だと思うんですよね。すごく利にかなってるし、全然悪くないと思ってます。それと1シーズン制で、ヨーロッパのトップリーグのスタンダードでやる事が良いか悪いかという話はまた別で。リーグをもっと価値のある物と外に見せる為に、10億稼ぐ為にそういう事をやるのがいいのかどうかには、ちょっと疑問があるというか。どうせJリーグがやるんだったら100億稼ぐ為にどうするかみたいな発想で何かをやってくれた方が面白いかなとは個人的には思うんだけど、2ステージ制に関してはもうしようがないかな、悪くはないかなって思ってます。やってた感覚でも選手はそんなに意識はないと思う、シーズン制じゃないと嫌だっていう事は全然ないと思う。

司会：はい。宜しいですか？ では他にございませんか？ はい、こちらの一番通路側にお座りの方、お名前を名乗ってからお願ひします。

挙手者：こんにちは、タケウチと言います。札幌ドームの使用料についてお伺いしたいと。かなりきついっていう事で、コンサドーレの運営に一番ネックになっているという事を、昨年のサポ集でも社長、おっしゃってたんですけども、何とか安く出来る方法はないんでしょうかね。例えば僕らが署名するとか。条例で決まってるって話を聞いたんで、条例であればたくさんの署名があれば議員さんが考えてもらえるとか。例えば某野球球団とあまりしたくないですけどコラボして署名するとか、僕らに出来る事。きっと社長もアプローチされてると思うんですけど、サポーターとして。きっと何億か違うんじゃないかなって気するんで、出来る事ないかなっていうのをお伺いしたいんですが。

野々村：何億か違うんですよ、ほんとに。2億9千万ぐらい掛かります。まあドームの使用料だけじゃないですね。そんでもう、何かして頂けると力強いというか心強いというか、有難いとは思います。どうやったら変わらかって言うお願ひはもう散々しますよ。さっきプロ野球の球団とコラボって話し出ましたけども、そこを考えている以上、たぶん変わらないと思うんですよ。企業広告としてやっているものからお金をドームが取る事と、市民クラブとして皆で作っていくスポーツのやり方をしている僕らと一緒に考えちゃダメだと思うんですよね。スポーツをどうやったら育てられてスポーツが何よっていう、その会社の福利厚生でやっている企業スポーツとは違うよねっていう事が行政の人達が分からないと、たぶんこの問題は解決しないんじゃないかなと。商売としてショーとして見せるアーティスト、そういう団体にはこれだけ取るけれども、地域のスポーツを作ってる市民クラブからはこれだけしか取らないっていうような理屈で考えないと、そもそもダメなんじゃないかなとは思ってるんで署名活動、もしして頂けるなら頂いて全然有難いんですけど。それを受け取った人に全然マインドがないんで、それで変わらかなっていう所があるんですよね。難しい所ですけど、まあでも言い続けて下さい、それは。どつかで届くと思いますから。はい。

挙手者：ありがとうございます。札幌市民、企業何かやる時とか、本州の大きなイベントをやる時とか、そういう差を付けるような仕組みとか、そういうところで修繕費とか、かなり掛かってるっていうのが事実だろうし、市民の税がそこに入るって事で問題なった事もありますから、一概に安くすれ安くすれって済む事じゃないと思うんです。ただ地域の振興発展の為にどうすればいいかって観点で何か出来る事があれば、社長言ってくれれば僕らります。

野々村：いやもうその考え方を、まず皆さんにその感覚を理解してもらって、それをまだ理解ない人に伝えてもらうっていうような事が一番早いって絶対必要だなって思ってます。お願ひします。

挙手者：ありがとうございました。

司会：はい、ありがとうございます。では他のご質問。はい、その隣の方、お願ひします。

挙手者：ヨコタと申します。宜しくお願ひします。選手の事で2点程お伺いしたいのですが、川崎から期限付きで加入した福森選手なんですけども経緯の獲得、今までどれくらいの頻度でどのような形でスカウティングして来て、

それでチームのどの様な強化ポイントと合致して獲得を決めたのかっていうのを教えて頂ければと思います。

野々村：福森くんは、強化担当は当然高校生の時から見てるのでいい選手だっていう事は分かっていると。まあ何でうちに来たかは何とも言えないんですけど、川崎でプレーする機会がきっと多くないという事を川崎サイドが想定していたから話があって、何チームかたぶん。大体そういう時は川崎としてもまだ選手を育てたい訳なので、川崎みたいないいサッカーをするような所に話をたぶんしたんだと思いますよ。3バックでやるにせよ4バックでやるにせよ、左利きのセンターバックはサイドバックも含めて必要な訳で、買い取るまでお金がないのでレンタル、うちの補強ポイントはそれですよね。川崎はあのチームとあのチームどうっていう話の中で、うち取りますよっていうチームがたぶん何チームかあって、最終的には福森が自分がどこに行ったらいいイメージが湧くからって所で札幌を選んだっていう事が、たぶん事実関係だと思います。

拳手者：ありがとうございます。もう1点パウロン選手に関して、今期の正式な契約形態に関してまだリリース出てないと思うんですけども。今期もまだ期限付きという事で考えて宜しいですか？

野々村：結局ね、期限付きっていう名の難しい所なんです。昔で言うとて言っても皆さんよく分からぬよ。共同保有みたいなのがあってサッカーにはあったりするんですね。どういう事かと言うと、移籍した時に1億円で売れました。そうしたら例えばブラジルのチームが7千万円貰います、コンサドーレが3千万円貰いますみたいな契約形態で、外国人は今上手く揃ってるニウドに関してもナザリトに関しても完全移籍なのか期限付移籍なのかよくわかんない感じで伝わってると思いますけど現状そういう形態で、パウロンもリリースはちょっとよくわかならないけど、そんなような契約形態になっていると思います。で、売れれば入るっていうそういう感じです。

拳手者：分かりました。ありがとうございます。

司会：はい、ありがとうございます。他にご質問ありませんか？　はい、端の方、お名前を名乗ってからご発言をお願い致します。

拳手者：シミズと申します。練習相手、道内だと教育大なり札大なり、一般であると前の北電の所だったりしますけれども、全国を知ってるチームが道内にはいない。その為にはセカンドチーム、岡山のようなセカンドチームを作って、言うなれば全国チームを出す、作るって考えはありますでしょうか？

野々村：考え方としてはなくはないんですけど、どれだけ費用掛かってっていう事を考えると、それも現実的ではなかなかないですね、今は。それよりもどこかの地域にJリーグのクラブが北海道の中にも出来たらいいのになとは思ったりもしますけど、それもあまり現実的ではないので。セカンドチーム持つて言っても遠征費だけでもたぶんリーグ戦に参加するんで、何千万円って掛かったりしますからね。現状はちょっと難しいと思います。セカンドチーム持つてるようなもんですね、今。いっぱいいますから。はい、そんな感じです。

拳手者：ありがとうございました。

司会：はい、ありがとうございます。他にございませんか？　はい、どうぞ。

拳手者：榎翔太を応援する会のタチバナと申します。宜しくお願い致します。

野々村：翔太の話出て来なかつたですもんね。

拳手者：先程クラブ向上委員会の方で人手が足らないって話がありました。それからCVSの方のいろんな案内もありました。CVS方は当日ゲームを背にしてお仕事をするって事なんですが、私達の集まりはオーバー45でちょっと年齢が高いメンバーの集まりなんですが、中には仕事をリタイヤした方もいらっしゃいますし、当日応援は出来ないが、普通の日だったら空いてるのでちょっとお手伝いしたいなって、それぞれいらっしゃるんですよね。人が関わるって事はお金が掛かる事なんで、その点で何かご協力が出来るような仕組みというかポジションというか、そういうのがあったらお聞きかせ願いたいというか。

野々村：そうですね。C V Sさんみたいな方々はほんとに有難いんですよね。じゃあ平日、リタイヤした人にホームページの管理をしてもらうかどうかっていう所は責任の問題もあったりするのになかなか難しいんですけど、そう言わると具体的にどうっていうのは、なかなかこうして欲しいという物は言えなかったりするんですけど。僕はもうとにかくコンサドーレの事を広めてくれるだけでいいかなっていうふうには常に思ってます。1人が1人を連れてくればみたいな話をよくあつたりするじゃないですか。ほんとにそれをやってって言って、やってくれるのかなっていうのはあつたりするんですよね。何でもいいんでコンサドーレの事を伝えてくれるだけで、僕は十分かなとは思いますけど。後は何ですかね。どんなのが逆にやってみたいとか、やつたらいいんじゃないとかありますか？

拳手者：先程ホームページのお話でしたが、私は出来ないんですが出来る方もいらっしゃると思いますし、現役でそういう仕事に携わってる方いらっしゃると思いますので、集えば出てくるのかなと。

野々村：まあ、そうですね。そこに費用が発生しない形で責任をどうするかみたいな所が難しいんですけど、検討させて頂いていいのかどうかちょっとわかんないですけど。そういう気持ちの人がどれだけ増えるかがすごく大事なので、そんなお仲間をたくさん増やして頂くような活動をして頂ければ、僕はそれで十分かなと。こちらからもしお願いする事があればまた何らかの形でお願いはしたいと思いますけど、とにかく広めて下さい。

拳手者：分かりました。C V Sの方達にちょっと頑張って頂いて、そういう場所を作って頂きたいと思います。

野々村：はい、ありがとうございます。

拳手者：集客の話があつたんですが、私シーズンチケットを持っているんですけども、B席なんですが他のお客様を案内する時に、見やすい事も考えてS S席とかS席、中央に近いとこをご案内するんですが、シーズンチケット買ってるのにその分持ち出しして隣に座らなきゃならないっていうのが出てくるんですよね。ですから出来ましたら、2000円引いてくれとは言わないんですけど、ある程度の援助して頂く割引制度があつてもいいのかなと、であれば年間何名も連れてって案内してるんですが、その分経済的にも少し負担がという所がありますので、ご検討の程を宜しくお願ひ致します。

野々村：はい、了解しました。たぶん、スタッフもしっかり聞いてると思いますので。

拳手者：榎翔太の会からあと何点か来るので。帰りにお渡ししていきますので宜しくお願ひします。もし時間が余れば、また宜しくお願ひします。

野々村：はい、あれですか？ 翔太を出せ使えとか、そういうのは無理ですよ。

拳手者：それは本人の力ですので、はい。ありがとうございます。

司会：はい、ありがとうございます。他にご質問ございませんか？ はい、真ん中にお座りの女性の方。

拳手者：タカハシと申します。宜しくお願ひします。単刀直入にお聞きしたいんですけども、稻本選手の奥さんが田中美穂さんって、私あまり知らないんですけども有名なモデルさんみたいで、札幌に住んで仕事もするのかどうかわかんないんですが、地元テレビのCMとか新聞とか稻本選手とセットで出た時にコンサドーレにお金が入らない形でも、セットで出てコンサを広めてっていう事で、そういうのって有りなんですかね？

野々村：全然、有りじゃないですか。そこは全く問題ないっていうか、そういう事にはなればいいんですけどね。

拳手者：そういうのがあれば、結構どんどん出ていいよっていう、そんな。

野々村：そりゃあ全然、どんどん出なさい！って思ってます。イナはやるっていうかもしれないけどね、奥さんの

方がローカルでどう、それはまた向こうの事務所の話なので。

挙手者：ちょっと、札幌で何か仕事がしたいなみたいな話を聞いた事があったので。

野々村：分かんないっす、それは。

挙手者：ありがとうございます。

野々村：はい、何かいいんじゃないですか。こっち来るっていうんだから大したもんですよ。

司会：はい、ありがとうございます。他ございませんか？ それでは、なければ。あつ、いいですか？

挙手者：関東地区後援会からの質問で抜けてたんですけども、スカパーの中継のレポーターなんですが、他のチームはかわいい女の子の（会場笑）レポーターを使っているんですけど、コンサドーレ札幌のホームゲームは、STVの男性アナウンサーで花がないと言った声が、遠方で見ている関東サポの方から出ているようで、そこら辺をHFCの方からプッシュして、女性を使って頂けないかという事はできないんでしょうか？以上です。

野々村：プッシュする事は出来るんじゃないっすか。プッシュする事は全然出来ますよ。出来ますけど制作費の問題でしょう、きっと。局アナはただで使えるけど、タレントを使うと何万円か掛かる訳で、そういう理屈ですよね。あと、制作サイドの意見としてどうかわかんないんですけど、サッカーのハーフ、ピッチレポーターがかわいらしい若い女性でいいのかというような、そういう考え方で作っているサッカーを制作している所もあるから、そこはSTVに聞かないとわかんないっすけどね。僕らとしては正直どっちでもっていう気がしますけども、プッシュしますか？一応言っておきますか？言つときますよ、一応。ほらね、今度前の方じゃイケメンがいいって言い始めますからね。（会場笑）そんな感じになるんですよ。それ言つときますわ。じゃあ。

司会：はい、ありがとうございます。じゃあどうぞ。はい。

挙手者：すいません。座ったままで失礼します。ゆるい質問なんですが、ウメハラと申します。金沢の試合会場がまだ未定のままなんんですけども、何か情報入ってませんでしょうか？

野々村：未定な事すら僕知らないっす。金沢ではやらないんじゃないですかね。金沢だけが金沢じゃないみたいな事を誰かに聞いたような気がする。だから申し訳ないっす。金沢に言って下さい、どこでやるんだって。

挙手者：ありがとうございます。

司会：ありがとうございます。あとは、ございませんか？ 社長、どうぞ。

野々村：2回目、翔太を使えとは言わなないっすよ。

挙手者：一昨年前まで、サポーターが会場に入る時に選手が入口で出迎えてくれたのがすごい印象があって、私の友達、北見とか釧路からも来るんですけど、それをすごく楽しみにしてたんですけど、先シーズンぐらいからなくなってしまったっていうか、数が減ったというか、その辺何か問題があったのかという事と、今後出来るだけやって頂きたいっていう要望なんですが。

野々村：それは決めの問題ですよね。一昨年は意識的に運営とか設営まで選手にCVSさんのやっている事とかを理解してもらう為に、敢えて試合に出ない選手を出したり体験をさせたりしてたんで、その流れでお出迎えとか出来たと思うんですけど、おそらく去年はゲームに関係ない選手は当然トレーニングがあるんで、だからそこに人がいなかつたっていう。現場でその仕事をさせるのがトレーニングだと決めるかどうかの問題で、じゃあどっちがいいのかっていう所ですよね。回数は少なくなっても同じような裏側でどういう人達がどう支えてくれてるかみたいな事は、選手にはしっかりと見せる事は、続けていきたいなと思いますけど。だから若干回数が減ったんだと思

ます。

挙手者：ありがとうございます。

司会：はい、宜しいですか？ え～と、社長何か目新しいお話ございませんでしょうか？

野々村：20年目なんですね。今日ずっと話をしましたけど、とにかく仲間をどうやって増やすか、興味を持つてもらう為に上手くメディアと連動して。道内のすごく遠くのエリアの人達まで届けられるっていう事じゃないですか。500万人いる人にもう一回北海道のチームだよっていう事を見せたいと思っていて、今年20年目だけ20周年っていうのは来年のシーズンになるんですよね。それを目掛けて、クラブの名前を変えようと思っています。北海道っていうのを付けようと思っていて「北海道コンサドーレ札幌」に変えるつもりで今、動いています。コンサドーレ札幌は変わらないんだけど、北海道のチームだよっていう事をもう一回多くの人に。札幌の人は北海道のチームだと思っているけれども、その他の地域の人達って、何だ札幌かよみたいな感じの人達って、案外地方を回った感覚でも多くて、うちのクラブの市場っていうのは札幌だけじゃなくて北海道なので、そのエリア500万人の人をターゲットにしてもっと大きくなつて行く為のスピードをあげるには、名前を変えるって言うんじゃないな、プラスするみたいな。「北海道コンサドーレ札幌」っていう名前に来年のシーズンから変えます。Jリーグのルールがあつて13ヶ月前ぐらいに理事会を通さないといけない。たぶん2月中ぐらいにあるので、そこで通る事になって、正式名称は変わる。まあ今までと変わらない部分もあるし、もっと広いエリアの北海道代表って事が、何となくこうメッセージとして伝わるような格好になればいいなとは思っています。それが来年の話ですけどね。多くの人もう一回仲間になって貰う為には、分かりやすい発信の仕方であるかなという事で、そんな動きをしています。

司会：ありがとうございます。今的事も含めてご質問は他にありませんでしょうか？ 急にシーンとしちゃいました？ 賛否いろいろあるとは思いますけど、はいどうぞ。ミヤモトさんどうぞ。

挙手者：ミヤモトと申します。今日はありがとうございます。札幌に勤務してるんですけども稚内住んでた事がありまして、稚内に住んでる時から札幌に試合観に来たりしてたんですけども距離の問題もあるし。JRだと6時間、時間の問題もあって。新聞やテレビの発信は当然稚内でも見たり聞いたり出来るんですけど、やっぱりちょっと札幌と距離があるなというのが、地方都市に住んでてすごく感じた所があって。名前の変更もそうだと思いますし、地元のサッカー協会も例えば1年に1回、札幌にツアー組んだりとかいろいろ頑張っている事がある。社長もおっしゃられた通り地方の情報発信とかサッカー教室とか、時間とお金いろいろ制約とかあるんだと思うんですけど、その気持ち引き続きやって欲しいと。ありがとうございます。

野々村：ありがとうございます。でもね、1年掛けて来年からになるんで。それだけやって道内の各市町村を回る様なミッションを1人のスタッフに与えて、今おっしゃった様にいろんな所でコンサドーレの事を、一緒にこういう事が出来ますっていう様な事を実現させていく作業をやろうと思っているので、上手く行きたいなって僕がほんとに思っている事なんです。今まで札幌だけでって事もないけれども、コンサドーレ札幌としてやってて、この200万人近い人達をターゲットにやって、その中でも全然取りきれ得てない所は引き続きやってかなきゃいけないんだけども、北海道に1個しかなくて。今日の話の中でも出しましたけど、コンサドーレは北海道を何かにピアールするとか、例えば東南アジアに北海道の事を伝えるっていう様な事が唯一出来るスポーツ団体だっていう様な、そんな価値を道全体で色んな人に分かってもらうっていう事が、今日の話の中で14億しかない物を20億30億していく可能性を広げる事だと思ってる。多少名前が変わったとして違和感は最初あったとしても、本来コンサドーレが北海道全体を担って行くという事を分かりやすく伝える為の変更だっていう事をご理解を頂きたい。いろんな講演で言うんですけど北海道どういうとこに価値があるかっていう事をいろんなところでいろんな人にもし分かってもらえたとするなら、それは勝つ負けるって事もひとつの価値だけども、あのクラブがある事で多少なりとも人生が豊かになって幸せと思える瞬間があるよねっていう人達が、札幌のこの辺にいる人達200万人全員にひとり年間1000円払ってもいいなって思ってもらえる、たった1000円払ってもいいなって思ってもらえる価値を見出せたとしたら、今の20億になる訳ですよね。そうすると国内で勝てるんですよ。今度はそのマーケット、北海道全体の500万の人にその価値を分かってもらえるとすると50億円になる。ひとり1000円でアジアで勝てるんですよね。夢みたいな話だけど、僕はサッカークラブコンサドーレにはその価値は必ずあると思う

ので、もうここはメッセージとして北海道を代表して戦っていく、運営していく物だつていう事を多くの人に分かってもらえたと考えていますんで、そんな日がいつか来るでしょうと思ってます。

司会：はい、ありがとうございます。他、ご質問なければ終わりにしましょうか。

野々村：終わりにしますか。ほんと、いつもありがとうございます。

司会：私も最後に社長からお話を聞いてちょっとびっくりしたんですけども、私もそれこそ室蘭に住んだり小樽に住んだり、美唄や稚内やいろんな所に住んだ経験がありますけども、やっぱりその時の友達に聞くと、帯広にも友人がいますけどもコンサドーレ札幌って札幌のチームだろうと、帯広のチームじゃないよねと、釧路のチームじゃないよね」という意識を持たれてる方がいるので、やっぱりオール北海道のチームだという意味ではいいのかなと、そういう名称変更もひとつ有りかなというふうに今聞いてました。そういう意味で北海道の540万皆がひとつのチームを応援出来て、そこから情報発信出来ればいいのかなと。今までその問題に関して手を付けた社長はいらっしゃらなかったので、ようやくそういう発想になったのかなというふうには感じました。賛否両論いろいろあるとは思いますけれども、私はそのお考えを支持させて頂きたいと思います。え～と、それではいつもの恒例で締めますか？ ヨーデルさん、宜しくお願ひします。それではコンサドーレコールで、いやいやいや（会場笑）もうやるの前提で来てません

突然お願ひしたんだけど、やるの前提になってません？もしかして。

山本さん：ちょっと社長のエピソードをひとつやらしてもらってもいいですか？ 私、札幌市役所に勤めておりまして、昔は市役所の職員と家族の仲間集まって100人ぐらいでキックオフパーティーっていうのやってました。それで毎回トークショーに大体その年現役を引退した方に来て頂いて、私とステージの上でトークショーをやると。野々村さんが引退になった時、トークショーをやろうという事で控室に入りました。戦力外になつたばかりで非常に元気がなく、何やるんっすか？、トークショーっすか～。この人とステージに上がって私しやべれるんだろうかな～って思つて、100人の前の扉がバッと開きました。野々村さん、ど～も～！ プロ精神の塊りだな～と。ほんとに野々村社長の下、一丸となって北海道コンサドーレの昇格を目指したいと思います。それではコンサドーレコールいきますか。

司会：お願ひします。コンサドーレコール3回です。宜しくお願ひします。

山本さん：せ～の、コンサドーレ！ コンサドーレ！ コンサドーレ！ ありがとうございました。頑張りましょう。（会場拍手）

司会：どうもありがとうございました。お帰りは滑りますので、気を付けて。車の運転、安全運転でお願いします。今日はわざわざ、お運び頂きましてありがとうございます。（会場拍手）

－ 16:15 時終了 －